

# 植物由来の触媒アピール

## 県立大・協和ファーマ学会で成果発表

**富山** 医薬品原薬製造の協和ファーマケミカル（高岡市長慶寺、櫻井隆社長）と県立大は30日、県民会館で開催中の日本プロセス化学会のシンポジウム

で、大豆の粉末を主原料とした医薬品製造用の触媒の開発について、研究成果を発表した。

触媒は化学反応を促進させる物質で、原料を薬の有効成分である「原薬」に加える工程などに欠かせない。研究チームは植物由来の触媒を世界で初めて開発。従来のもより環境負荷が小さく、口にする際の安全性にも優れるとされる。

この日は、研究に携わった同社技術部の和田浩一さんがポスター発表を行い、ブースを訪れた人らに内容

を説明。和田さんは「実用化に向け、医薬品製造関係者にアピールする良い機会になった」と話した。  
シンポジウムには全国の化学系メーカー約90社が参加。1日まで開かれ、初日の30日は約530人が来場した。



ブースを訪れた人たちに研究の内容を説明する和田さん（左）